

チャレンジするすべての人を応援する機関誌

PRIDE

by CFOサーチ

株式会社CFOサーチ

代表取締役社長

土田 浩史



— 失敗を恐れず、挑戦し続ける人へ —

「そのチャレンジ、応援。」

インタビュー

「経営企画の矜持」

株式会社マリオン 武藤 亮一 さん
株式会社京王百貨店 田平 隆雄 さん

インタビュー

「CFOの矜持」

株式会社ジモティー 堀 直之 さん
IPO協会 轟 一般社団法人 加藤 広晃 さん

代表者メッセージ

今も日々、成長を感じています。
色々な方のお役に立てることが嬉しいので、
チャレンジする方への応援を続けていきたいです。

土田 浩史 - Hiroshi Tsuchida -

● インタビュアー

酒井 瞳 広島県出身

人材紹介のキャリアを生かし、副業でCFOサーチ共同パートナー。※インタビュー本文に登場する銀行時代の先輩の長女

ー 普段はインタビューする側として改めて気づいた こともあるとか。

大事ななのは「本当に相談出来る人」がいるかどうか…
単に「いいんじゃない。やったら？」は無責任な応援
者の可能性があります。
反対を押し切って決断した時には覚悟が決まるんです。
絶対に失敗出来ない場面では、反対意見を言うてく
れる人がいるかどうかが分かれ目になると思います。
例えば、補助金コンサルからは「その事業は止めま
しょう」というアドバイスは期待出来ません。

ー 土田さんの生い立ちから教えて下さい。

父方の祖父は県庁職員から県議になって衆議院
選挙に出る時にすべての資産をつぎ込んだ人。
母方の祖父(写真)は個人事業主で、「個」の力で
色々な事業をやっていました。自分はこの母方の祖
父とそっくりと言われてました。真ん中の女の子
が母です。

ー 子供の頃に大病をされたんですよね？

北海道の江別市で、小3の時に腎臓病で緊急入院。
絶対安静で一日中天井を見て「絶対良くなる、負
けないぞっ」て。
死ぬってどういうことだろうと毎日考えてました。
退院した時の担当の先生がすごくいい方で、生き
る勇気をもらいました。
その時の同級生が何人も札幌の高校に越境入学
してきて再会。
あの先生に出会わなかったら今の人生はなかつ
たよなど今でも話をしてます。



祖父祖母と母(真ん中)

ー 転校が続いて色々あったとのことでした？

そうなんです。中学で札幌に転校して、壮絶なイジメに。親にも相談出来ず、死んだら楽になるのかなと毎日考えてました。

その時も担任の先生に救ってもらいました。

そこからですね、勉強も身が入りました。高校でも勉強が楽しかったです。

ー 先生に感謝ですね。一橋大学を目指した理由は？

ジャーナリストに憧れてたので社会学部へ。

それと高校から始めたアーチェリーの有名選手がいたことも大きかったです。

というと恰好いいかもしれませんが、実は、高校3年生の9月の学園祭の打ち上げ直後に自転車で旅に出たんです。

誰にも言わず、結局9日間で北海道を半周。その時に一橋大学のソロツーリングの方と出会い、一橋大学の良さを教えてもらい、そこから4か月一直線に勉強。

他の大学は受験せず、なんとか合格しました。その時の担任の先生からは、社会人になってからも「お前はな～」と、言われ続けました。

ー 若さですね！

社会人になってからも順調だったと何ってます。

とんでもない。住友信託銀行に入行してすぐに挫折。同じ課の先輩に本気で叱られて、教えてもらいました。思い上がってた自分は特別ではなく普通の人なんだと。だから他の人とは違うことをしないと成功しないなと。

30歳で法人新規部署に異動しました。

3日間営業に出ないで周囲を観察、自分だけは飛び込み営業はせず、社長とかに直接アプローチしました。具体的に提案があるので会いたいと。面白いやつがきたなと。いまだに上場新規件数の記録は破られてないと聞いてます。

ー これからの抱負を。

今も日々、成長を感じています。

色々な方のお役に立てることが嬉しいので、チャレンジする方への応援を続けていきたいです。



出発2日目。 稚内に向かう途中、東京に行くかと決意。

土田 浩史 株式会社CFOサーチ代表取締役

1992年 一橋大学社会学部卒(体育会副幹事長)

2021年 銀行退職後メーカー役員等を経て独立

2025年6月 都議選出馬

【座右の銘】昨日の自分を上回れ！

経営企画の矜持

武藤 亮一 さん

株式会社マリオン／取締役経営企画部長

1965年12月生まれ

新卒で東京相和銀行に入行

同行破綻後に複数企業の勤務を経験

2022年12月株式会社マリオンへ入社

現在は取締役経営企画部長として経営の中核を担う



「楽しくない仕事でも楽しくしてあげたい。
楽しくやった方が結果がついてくる」と信じています。

一土田 ご無沙汰してます。何度も飲んでいますが、社会人以前の話を伺ったことはなかったような…

一武藤 いつも仕事の話でした(笑)。

自分は仏教徒ですが、1965年12月25日のクリスマス生まれです。

小中学校まで池袋で千葉県の新宿に転居、高校は新設校の野球部で本気で甲子園を目指していたんです。城西大学経済学部に入社して、オリエンタルランドのジャングルクルーズで4年間スキッパーのバイトをしていました。

ゼミが金融論の先生だったのと、父も姉も銀行でしたので自然に銀行(東京相和銀行)に入社しました。土曜日は半ドン出社の頃です。

一土田 バブル時代の地銀ですね。激烈なノルマ仕事だったのでは？

一武藤 まさに体育会系の塊のような銀行でした。「やるまで帰ってくるな！」とか。昭和63年入社で同期が700名と多くて、辞める前提で採用していたんですね。

一土田 700名？それはすごい。当時の都銀や地銀は大変そうだなと思っていました。

某大手銀行に行った先輩は、上司から灰皿をぶつけられて辞めたと言っていました。信託銀行は平和でしたね。

そうこうしているうちにバブルが崩壊し、銀行も潰れてしまったと。

一武藤 今でも覚えています、1999年6月12日に夏のボーナスが出た翌日に破綻しました。同期は300名ほど残っていました。

自身は破綻処理の業務に携わり、最後まで見届けてから、徳島本社のジャストシステム(現東証プライム上場)に転職、その後は上場準備会社でCFOなどをやっていました。

一土田 最初にお会いしたのが前職のCFOの時でしたね。大変苦労されて転職、ついに上場会社の取締役になられたと。

ところで旧東京相和銀行出身で上場企業の取締役は聞いたことがないですね。

一武藤 土田さんのご紹介で株式会社マリオンに入社し、2022年12月開催の定例株主総会で取締役に選任いただきました。

55歳を超えての転職だったので人の繋がりが大切だなと実感しています。

調べたことはないですが東京相和銀行の先輩から、「上場会社の役員やってるのは武藤だけだな」と言われたことがあります(笑)。

一土田 武藤さんは現役バリバリでとてもエネルギーが凄いですよね？仕事に対して真摯で楽しめているんだと感じます。



一武藤 銀行時代に見たパワーハラチックなこととはしないとかはベースにあります。きちんとしたエビデンスをつけた説明など論理的な思考能力が6割で、残り4割は人間関係だと僕は思っているんです。銀行でも誰かを陥れるとか、そういうことには絶対関わらなかったんです。自分の中では嫌だなんて思っても絶対表情には出さず、いつもニコニコしながらです。

一土田 ご自身が強いからこそですよ。

一武藤 例えば、銀行のときに僕よりも先に偉くなった同期や後輩がいました。でも、それって銀行の中の小さな世界での競争じゃないですか。最終的に何か楽しくできて、その後に成功できればいいかなって思っています。

一土田 武藤さんのように修羅場を潜り抜けていて、トップが安心して相談できる人はなかなか見つからない気がします。経営企画の仕事にも活かされていますか？

一武藤 これは経営企画の良さですが、経営者のビジョンとか今後こういう風に持っていきたいという話が直接聞けるところだと思います。

上場企業の経営企画の最大のミッションは、企業価値を上げることであり、この規模の会社なので、IRに限らずなんでもやらないといけない。オーナートップとは会食等も一緒に出ますし、普段はお会いできないような企業のトップの方とも会えてしまう。大変なこともありますし、お給料を貰って楽しく仕事ができるなんて最高だと思っています。

一土田 最高潮はこれからですね。

一武藤 自分が若いときの60歳は「おじいちゃん」という感じでしたよね。信じられませんね。サザエさんの浪平さんが56歳設定ですからね(笑)。

一土田 ちょうど56歳のCFOの方が、「数年ぶりに行った大学の同窓会で、銀行就職組がびっくりするほど老けているんです。ほんとに銀行に行かなくて良かったです」と言っていました。

「何のために仕事をするのかを根っここのところで持っているかどうか」で年齢を重ねた時に違いが出てくると感じています。

一武藤 元職の時ですが、取引銀行のうち、某大手銀行だけは「血も涙もない」と思ったことがありました。まさに、「ロジックが10割&人間味ゼロ」なんです。自分には守るべきポリシーがありますし、「楽しくない仕事でも楽しくしてあげたい。楽しくやった方が結果がついてくる」と信じて続けていきたいと思っています。



経営企画の矜持

田平 隆雄 さん
株式会社京王百貨店／取締役経営企画部長

1971年12月生まれ。東京都国立高校卒
1995年一橋大学社会学部卒、新卒で京王電鉄株式会社入社
2024年6月株式会社京王百貨店取締役経営企画部長に就任



「先を見通す力、何かを成し遂げたいという強い意志」が必要

● インタビュアー

吉村望

一橋大学社会学4年 体育会洋弓部主将
※ インタビュー当時は3年生

一田平 こんにちは。吉村さんは国立に住んでるんですね？今日は同じ国立市民として宜しくお願いします。

一吉村 はい。宜しくお願いします。大学からの国立デビューですが(笑)。田平さんの国立歴は筋金入りですよ？高校は国立高校だったとか？

一田平 そうなんです。高校3年から、浪人、大学と6年。結婚してからまた国立に戻ってきたので30年以上国立に住んでますね。

一吉村 国立ラブですね。大学入学までの話をぜひ。

一田平 高校ではバンドにハマって勉強せずに浪人。うちの高校は4年一貫教育なので(笑)、だいたいみんな4年目はお茶の水か代々木か千駄ヶ谷の学校に通ってましたね。駿台で1年必死で勉強して東大を目指したのですが、力足りず、後期で一橋に。駿台の仲間も同じように一橋に入学しました。

一吉村 大学時代もバンド活動を続けたんですか？

一田平 高校時代のメンバーと続けました。出たライブハウスも国立でした。周りからは、京王電鉄の社員なのに国立に住んでJR 通勤とは、よほど国立ラブと見られていると思います(笑)

吉村さんは私と同じ社会学部でしたよね？就職活動は何業界を狙ってるんですか？

一吉村 広告代理店を軸に考えてます。田平さんの会社や経営企画とは違いかもしれませんが。

一田平 私も、ゼミが社会心理学のゼミでマスコミ論とかもやっていたので元々は広告代理店の志望でした。ゼミの先輩に会いに、とある代理店にも行ったのですが、お会いした先輩の目の下に真っ黒なクマができており、これはまずいなど(笑)。

ただJR東海の京都のCMが好きでそういうのを作りたいなと思ってJR東海に行こうと思い、その関連から鉄道会社を受け始めました。

京王電鉄に入ってから、鉄道やバスの現場実習を行い本配属が京王グループの広告代理店。京都のCMを作るつもりが高尾山のポスターを作ることに。急にドメスティックな感じがしました。

その後、広報に配属になり文章を書いたり、メディア対応などしたり。

その後ホテル用地を仕込みや、ショッピングセンター業にも携わりました。ショッピングセンターの経験は今も活かされています。

あと、リビタというリノベーションの会社でシェアハウスの運営も経験しました。そろそろ会社生活も30年になりますが、いろいろ経験させてもらっています。

一吉村 インフラ系の会社って色々なことが経験できるんですね。経営企画って社長になる人が通る道なんだろうなぐらいの理解しかないのですが、そもそもご経験はあったのですか。

一田平 当時の経験と今がイコールかわかりませんが、私は35歳の頃から3年ほど京王電鉄の経営企画部にいました。おっしゃるとおり、私の直属の部長だったお二人ともトップに。当時隣の担当の課長だった方は、その後経営企画部長を経て今のトップです。まさに社長になる方が通る道でした(笑)。

ただ、経営企画部だからトップになるというより、先を見通す力、何かを成し遂げたいという強い意志を持っていたから、トップになられたのだと思います。

私は今を見るのに精いっぱいです(笑)。

ただ今は百貨店という課題の多い業界の経営企画なので、百貨店業の将来を考えながら自社の将来を描いていくという難しきもあるけれど、とてもやりがいのある仕事です。

一吉村 期待を裏切らないで仕事を続けられるって凄いですね。

一 田平 とんでもない。恥ずかしながら失敗だらけです。広告代理店の時にコピーライターの講演を聞く機会があって、その方が「コピーライターの仕事はクライアントの抱える課題を解決することだ」おっしゃってました。それに感化され、自分のモットーを「一、自分に関わる人はすべてクライアントだと思う。一、クライアントの抱える問題点を解決するのが仕事である。一、クライアントがどうしてほしいのかを考えて行動する」にして今も手帳に入れてあります。大きく出たよね(笑)

このクライアントというのは、当然弊社をご利用いただくお客様はもちろんのこと、自分に関わる全ての人だから、社長も部下も、社員もクライアントということ。

まさに四面楚歌だけれど、経営企画部長としてその期待に応えないといけないと思っています。

非常にハードではありますが。期待されているかわかりませんが、労苦をいとわずやり切るという気概を持って取り組んでいます。



一吉村 京王の社風ってどんな感じですか？

一田平 京王グループには様々な会社があるので一概には言えませんが、基本はまじめで、お客様からの信頼で商売している感じですかね。

固い感じがすると思いますが、何もなかった西新宿に京王プラザホテルを建てるなど、元々はチャレンジ精神なグループですよ。

一吉村 田平さんの後は一橋から何名か入社されてるんですか？

一田平 ここ10年くらいは毎年2～3人は来てくれているみたいです。まじめな社風と合ってるんですね。

一吉村 同期の誰かが入社することになったら宜しく願います(笑)。本日は就職活動に向けての心構えが出来たような気がします。来月の一橋祭にもご一緒いただけるということで、大変嬉しいです。

一田平 そうですね。久々に「一橋プロレス」を観たいと思ってたので楽しみです。

京王電鉄の広報の時にお世話になった記者の方がまだ現役で出ているみたいです。これを縁に国立仲間として宜しくお願いしますね。

後日談

吉村さんの案内で田平さんを交えて一橋祭に参加しました(写真右から2番目が田平さん)。

VR体験で皆酔ってしまったり、メインイベントの一橋プロレスを堪能して、町中華で飲んだりと現役時代を思い出しました。



CFOの矜持

Interview Vol.3



株式会社ジモティー執行役員コーポレート担当

堀 直之さん

関西学院大学社会学部卒業。2007年大和証券SMBC株式会社に入社し、公開引受等の投資銀行業務に従事。2013年より株式会社もしも、株式会社ROXX等のスタートアップにて、CFOとして資金調達、パイアウト、新規事業開発等を経験。2023年10月株式会社ジモティー（東証グロース）・執行役員コーポレート担当

「忙しいから楽しいじゃなくて、楽しいから忙しくなってます」

ー いつも仕事の話だったので、子供時代から

小さいころから将棋をやってたんですが、あるきっかけで少年野球にハマリ、野球が出来なくなるのが嫌で塾も辞めて中学受験を見送ったほどです。

高校受験が終わったら運動音痴になって50m走のタイムも落ちて野球が下手になってました。勉強しすぎだったかもしれません。中学の時は野球部でキャプテンだったのに高校では控えに。コンプレックスの始まりです。

偏差値70ぐらいの高校なので神戸大学とか阪大京大とかじゃないですか。自分は関西学院大学で「どここの国立を受けて落ちたから関学にきました」みたいな自己紹介をしてました。そんなコンプレックスから公認会計士を目指しました。論文試験に落ちて留年して大和証券SMBCに入ったのでまあ成功です(笑)。

京大卒の連中はゴールドマンサックスとかを落ちて大和に入社なんでコンプレックスの塊ですよ。

彼らは今の自分の自分は絶対に許せないから12時まで働いて3時まで英語の勉強してとか、ものすごいエネルギーがありましたね。

ー 堀さんはそうならなかった？

大和に入ってる自分を認めてしまい、力の源泉だったコンプレックスが薄れたので、彼らほど頑張れていませんでした。憧れてしまったホリエモンみたいなめちゃくちゃな経営者の右腕になりたいとか思って公開引受部で仕事してました。同期の2/3近くが転職して同業やPEファンドが多く、自分のように事業会社のCFO畑は10名くらいいると思います。

ー 複数の会社を経験して今のジモティーに転職。忙しいですね。

動きもあって面白いですね。忙しいから楽しいじゃなくて、楽しいから忙しくなってます。今、そのサイクルにちょうどハマってます。

ー 転職には何年ぐらいのスパンとか考えている？

転職は考えていませんが、ダラダラいるつもりではエネルギーが出ないので、一旦は5年間で区切り、会社をどこまで伸ばしたら5年間でどういうリターンがあるのかを明確にしたいと社長に伝えました。

コンプレックスが薄れた自分でも本気で努力する方法論として、5年以内の目標と自分へのエサ(インセンティブ)を与え、自分の力を引き出したと思いました。



一 同じ会社に居続ける人からは出てこない発想かと

むしろ同じ会社に居続けている人こそ、短い期間の目標設定とリターンの明確化は大事だと思います。実績が上がって会社も成長して株式報酬などのリターンがあるとわくわくする。

一 40代から50代になってもパフォーマンスを上げ続けられる自信がある

経験値が上がると、オタオタしなくなるとかわざと鈍感に見せるとか(笑)、そういう部分もあるかなっていう気はします。

一 「苦勞してる人で55歳以上のCFOを探して欲しい」とかの相談が結構あります

成長しないということは競争優位性がなくなる。50歳CFO歴20年です」だけでなくプラスアルファを作りたい。経験を積み中で自分のキャリアの価値・履歴書の価値をどれだけ上げられるかを意識してます。最近では50代以上の方と積極的に話すようにしてますね。キャリアの選択肢をいろいろと考えているんです。例えば一生分稼いだらアーリーリタイアという選択肢もありますが、きつと飽きてしまうだろうと想像してますね。一年くらいフラフラして飽きてきたら、もう一度フルコミットでやるという気持ちが出てくるんだろうと思っています。

鰻が大好きなんです、食べない期間を入れないと(笑)。そうしてから食べるともうめっちゃめっちゃ美味しいんですよ。

一 鰻マニアですもんね(笑)。ところで知り合いで堀さんのレスが一番早く、興味を持って話を聞いてくる

孫さんが某社長を選んだ理由が「あいつが一番レスが早いから」だったんです。それから経営者から信頼される重要な要素なのかなと意識してます。

土田さんは自分の将来を考える上で、すごい参考になる対象として見させてもらってるので、すごく興味があるんです(笑)

どの分野でも5人ぐらいのサンプルを集めるっていうことをしてます。これからM&Aをやっていくとなったら、M&Aを盛んにやってる会社に聞きますよね？経験的に5社ぐらいあれば自分に合うものが大体わかってくる感じです。

一 普段からコミュニケーションを取ってアンテナ立っているからこそですね

普段からギブしてると聞きやすいということはありません。たまに怒られますけれども。コンサルタントとかに無償で聞いていると「お前なんか返せよ」とか。

一 今度、元ポートの加藤さんにインタビューするんですが彼の考え方はとても珍しくて楽しみなんです。

加藤さんとは親しくしてて、来週食事しますよ。

一 やっぱ堀さんのアンテナはすごい！さすがです(笑)



CFOの矜持 *Interview Vol.3*



IPO協会 轟 一般社団法人 代表理事

加藤 広晃さん

1984年2月15日生まれ 一橋大学商学部卒(伊藤邦雄ゼミ)

2007年公認会計士試験合格

2008年 監査法人トーマツ入社

2013年 株式会社メタップス入社(IPO)

2017年株式会社ポート入社(2回目のIPO)

2021年 公認会計士資格を返上し、IPO協会 轟 一般社団法人

「大学入ってみたら、遊んでいる奴か会計士を目指している奴しかいなくて…」

これじゃダメだと思い、バイトして金を貯めて

カリフォルニアのハースに授業を覗きに行ってみたんです」

一土田 先日、ジモティの堀さんにインタビューさせて頂きました。お二人はお知り合いだったんですね。対談にしゃやば良かったですかね(笑)。大学ゼミのあたりの話から伺います。

一加藤 最初に、自分の人生に影響があったのが一橋大学の伊藤邦夫先生なんです。

元々、父が会社で伊藤先生と関係があったことからよく聞いてました。当時は家に日経ビジネスがあって、中学の時からパソコンを推奨されていた環境でした。

周りにはそんな中高校生はいなかったんです。

大学に入って伊藤先生を訪ねてゼミに入るわけですが、例えば税制適格ストックオプションとか伊藤先生が関与したことが、日本の資本市場に大きな影響を及ぼしている。これは衝撃でした。

スタートアップなんて、資本市場に全然インパクトないじゃないですか。年間100社のIPOレベルで、メルカリですら時価総額は全体からするとすごく小さい。

自分はそもそも起業を目指していたこともあり、ゼロイチから立ち上げる経営者のことは、ほんとリスペクトしてます。でも、事実として仕組みを作る方がインパクトは大きい。後から話しますが、自分は公認会計士になって監査に携わりたいとは一切思っていなかったですし、今も思ってないんです。本当にキャプテンオブインダストリーを突き詰めていくなら、一つの会社を上場させる程度のレベルでなく、資本市場全体の考え方を持てたのは伊藤先生のおかげだと思っています。

一土田 だからこそ公認会計士の資格を返上して今の活動をされてるんですね。世間の公認会計士のCFOとは見ている世界が違うというか、今の加藤さんになったのはどうしてなのかとても興味があります。過去のインタビューでは触れられてない部分を大学の先輩として深掘りさせてもらいますね。

一加藤 小中学校で卓球やっていていじめられたりしたんです。極真空手をやっている強いやつを取り巻き連中とか。やってやろうじゃねえかって同じ極真空手の道場に入って空手家人生へ(笑)。一番の進学校の小倉高校へなんとか入りましたが、成績は中の下です。お金に繋がる仕事をしたい、起業したいという気持ちがあったので商学部のある一橋しか考えてなかったら成績がトップクラスになったんですね。いい大学に入りたいという気持ちの周囲とはちょっと違ってたと思います。

一土田 自分と似てるなあ。ちょっと変な奴(笑)。



一加藤 そんな気持ちで大学入ってみたら、遊んでいる奴か会計士を目指している奴しかなくて、必修の英語はシェイクスピアですよ？これじゃダメだと思い、バイトして金を貯めてカリフォルニアのハース(※)に授業を覗きに行ってみたんです。

そしたら授業料を払ってないのにいいよってMBAの授業を受けさせてくれたんです。財務諸表は読めたので授業も分かるんです。もう楽しすぎて帰りたくなりました。その反動で日本に帰ってきたら大学に行けなくなってしまって…

英語の単位も落としちゃいました。

(※)カリフォルニア大学バークレー校 ハース・スクール・オブ・ビジネス(Haas School of Business, University of California Berkeley)

一土田 まだ10代の頃ですよ？周りは合コンだどうだと浮かれてますよね？



一加藤 カリフォルニアしか見えてませんでした。持病の顎関節症が行った瞬間に治ってしまって、こしかないと。父に相談して一年間行かせてもらいました。そこでスタンフォードの方に色々聞いてたら、日本人なら数字を使う仕事が寿司職人だなど言うんですよ。大学の留学制度の枠が厳しくて、ならば一橋に戻って公認会計士を取ってからデロイトに入ってしまうばゴールは一緒だなと。

一土田 そこで公認会計士を目指したんです。バカにした連中と同じ土俵へようこそ。

一加藤 そうなんです(笑)。3年生になって伊藤ゼミに入って、公認会計士取ってやろうかって、これが全然受かんないんですよ。ゼミとの両立は無理でした。1年休学して大原簿記で全日制プログラムに入って、ボロボロになってようやく受かりました。元々海外志向だったのでGSかデロイトで考えていて、縁もあったのでデロイトトーマツに入って社会人をスタートしました。

一土田 そこから色んな転機があって、周囲の人とは違う方向に行ってIPOを2度経験して今に至ると。

今の加藤さんの立ち位置は筋が通っているというか、一貫性があるんですね。いや面白い。仕事の関係ではこんな話は聞けなかったです。じゃあアルコールを入れながら先輩後輩で飲みますか！

////////// インタビューを終えて //////////

歴代でダントツに共感出来て面白かったです。書ききれないので社会人になる前までで終わります。どの大学に何故行こうか悩んでいる高校生に是非生の声を聞いてもらいと思いました。

ヒッシーとはるかの もち呑み日誌



〳 ヒッシーさんってこんな人! 〳〳

菱島 邦夫さん

出身大学:一橋大学(H4商)
某外資系食品メーカーのセールスマン。
好物はサウナと酒に合う食べ物。
週末の昼呑みが原動力。



ビーも、ヒッシーです。

今回のもち呑みは、両国高校の後輩で編集サポートの文学部出身のはるかちゃんと一緒に。



とりあえずの肴として頼んだのは、関アジの刺し身、牡蠣のしぐれ煮、チャーシュー。はるかちゃんは好き嫌いないようで、チョイスが楽チン。

秀逸だったのは牡蠣のしぐれ煮。片栗粉をまぶして揚げた牡蠣のカリッと感が残っている。温めたしぐれ煮を牡蠣にかけたのね。出汁のガツツリ効いたたっぷりの大根おろしは、それだけでも日本酒を2合は飲める旨さと分量。

魚だけでなく肉料理も素晴らしい♡

写真のチャーシューも絶妙なトロトロ具合。ポン酢でサッパリいただきます。はるかちゃんはどちらかというとお肉好きのよう。



向かうのは、金田@自由が丘。表現に迷うけど「正しい居酒屋」です。ご飯物がメニューにないのが潔い。ここは、お酒を飲む店です、とメニューが言ってます。人気店ですからね、開店前から並んで、口開けと同時に入店～。

まずは、サッポロ赤星の瓶ビールで乾杯。絶妙な冷やし具合。さすがです！

しかし、明るいうちに飲む酒は20%増しで旨い気がする。なんで？誰か科学的に解明して欲しい。



さて、酒を日本酒に替えて、追加の肴は、角煮、さつま揚げ、穴子白焼き、メバルの煮付け。さつま揚げはフワフワもちりの独特の食感で、まあ旨～い！

何食っても間違いない♡

ご馳走様でした。必ずまた来ます。

あっ、金田にご飯物がなかったので帰りにラーメン食っちゃったのは内緒です^^